

巨樹・巨木シリーズ28 岐阜県-2

細田木材工業株式会社
顧問 細田 安治

巨樹・巨木シリーズ28は岐阜県の2回目となる。岐阜県は針葉樹の巨樹・巨木が数多く、針葉樹の宝庫とも称されている。なかでもヒノキとスギの有名樹が多く目についた。前号は「オールスギ」としたが、それでもご紹介しきれなかった数本をお見せしたい。今号も探索者U氏の足跡を辿っていく。

1000年にも達する長い年月を、大自然の猛威と闘い、生き抜いてきた巨樹・巨木は、樹の表情からもその厳しい生きざまを表しており、特にヒノキは、さまざまな表情で見る者に迫ってくる。ヒノキ、スギは、神社では鎮守様として、寺院ではご先祖様を大切にする地域の人たちの心のよりどころとなる巨樹・巨木が数多い。また、迫力ある変木、珍木、奇木の類^{たぐい}は見る人に生命の不可思議さを垣間見せ、楽しませてくれる。これは所変われど、全国津々浦々に見られる日本の原風景の一つではないだろうか。

今号も筆者の独断と偏見により巨樹を選んだ。さて早速本文に入る。

写真番号-1 樹番号5 坂下の12本ヒノキ

樹齢700年、根元の幹周囲 6 m、目通り幹周囲 4 m、樹高23m 下呂市小坂町字坂下 岐阜県指定天然記念物

以下は岐阜県ホームページを参照。

小坂町中心部の南方1 kmの丘の上のヒノキは、地上1.7mから12本の幹が分かれており、他に類のないような特異な樹形を呈している。この近辺には他にも、実生^{みしょう}ヒノキ(種から育てたヒノキの苗のこと)の幼苗が根元から数本ないし10数本に分岐しているものがみられるが、この形質は遺伝的なものと考えられる。「実生の若い苗から特異な形で生長したもの」ということだ。樹齢700年とあるが、枝張り東8.0m、西6.8m、南6.8m、北8.6mで樹勢は旺盛である。

案内板には、地元では「おヒノキ様」と呼ばれ、神明神社の御旅所とされている、とある。

＜筆者のつぶやき＞

このヒノキはまったく特異な形をしている。不思議だ。見た範囲では9本～10本に分岐しているが、立ち上がる樹の根は、邪魔な岩をよけながら、地上から2～3mほど伸び、舵を戻すように「岩なんかなんだ」とばかり、岩を通り



写真1 坂下の12本ヒノキ

越して、真っすぐに腰を伸ばしている。これだけでも凄いことだが、腰を伸ばした立ち位置から、直立の幹を10数本立てている。

しかもその10数本がそれぞれ喧嘩せず、真っすぐに立ち上がり、しっかりと伸びている。これこそ、自然の造形の素晴らしさだ。この木が樹根から五枚の板のように寄り添っているが、これはどうしてできたのか。次々疑問が、なぜなぜが浮かんでくる。想像するのが楽しくなるのは筆者の好奇心が強すぎるためか。このような体験ができるのも、探索者U氏のお蔭様と感謝している。

写真番号-2 樹番号26 ^{だい ち じ} 大智寺の大ヒノキ

樹 齢 推 定700年、樹周6.6m、樹高25m 岐阜市山形北野 岐阜県指定天然記念物

以下は、大智寺ホームページより。

東側の根元付近に落雷の為にできた大きな空洞がある。この空洞は昔々流浪の民の一夜宿になったとも……また大智寺を開山した「玉浦宗珉」が亡くなった時、このヒノキが枯れ始めたが、大般若経を唱えたところ、蘇生したとも伝えられている。大木に育つにはそれなりの、木魂が宿るのだろうか。しかし、今の異常気象をどれだけ耐えていけるのか??????

<筆者のつぶやき>

この大ヒノキは、根元はしっかり地面を捉えている。まるで^{おおわし}大鷲の爪が地面を確り掴み「ビクともせず」力強く見える。頼りがいのある巨樹とみた。幹自体はまっすぐに立ち、しかも、すさまじくねじ曲がっている。絞り方を見ると大相撲の横綱の化粧まわしにも見えるが、一方では巨大なスプリングのようにも見えるほど、すさまじいねじりだ。このようなねじれは、初めて見た。まったくの驚きである。

写真番号-3 樹番号21 ^{はく さん ちゅう きょ} 白山中居神社150本スギ

樹 齢200～1000年、樹周 6 ～ 8 m、樹高30m 郡上市白鳥町白子^{いとしろ}石徹白 岐阜県指定天然記念物

白山信仰神社として知られる「白山中居神社の森」には樹齢数百年から1000年の巨木が150本以上あることから「150本の森」とも言われている。森全体が荘厳な雰囲気包まれている。

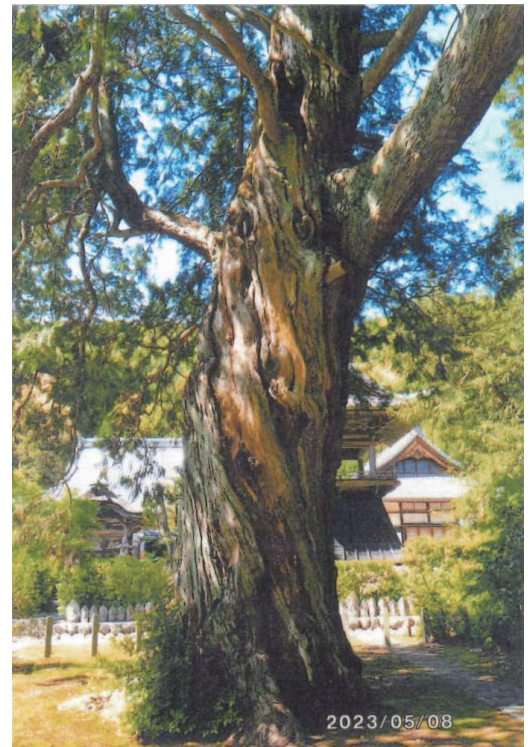


写真2 大智寺の大ヒノキ

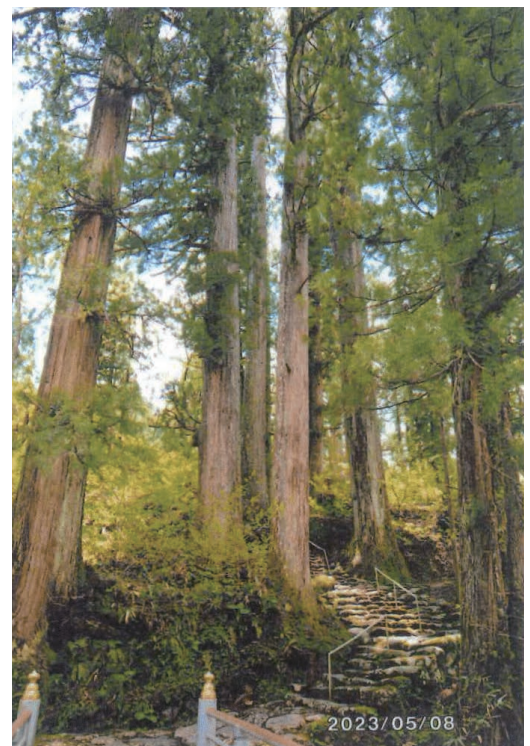


写真3 白山中居神社150本スギ

＜筆者のつぶやき＞

白山中居神社の参道は両側に樹高30m級のスギの巨木に守られている。背筋がしっかり伸びている若者のように大きく高く天を指している。案内板には樹齢1000年ともあるがこの写真で見た筆者の印象では、この巨木はまだまだ成長するのではと想像した。人にたとえば、人生半ば働き盛りの人物を思わせる巨木ではないか。偽らざる感想だが、いささか年寄りの独断が過ぎたればご寛容を。

写真番号-4 樹番号22 白山中居神社の浄安スギ(150本スギの主木)

樹齢1000年、樹高35m、樹周13.6m、目通り幹周り12.1m 郡上市白鳥町白子石徹白 岐阜県指定天然記念物

白山中居神社の裏山に鎮座している。地上1.8メートルのところで2つの幹に分かれている。

＜筆者のつぶやき＞

150本スギとともに、浄安スギにも深い感動を覚えた。

根元から数メートルから二股に分かれている。このような形状のスギの巨樹はよく見かけるし、ご紹介もしている。たいていの場合、2本は寄り添うようにお行儀よくしており、仲の良い夫婦のようなので「夫婦杉」などと言われている。ところが、この浄安スギはそれらとは異なり、二股そのもののような樹形であり樹相である。簡単に言えば「人が逆立ちしている」と表現すればわかり易いかもしれない。しかも、また腕とも見えなくはない枝が2本突き出し、人が両腕を広げたように見えるのもこの巨木の特徴に見えた。見方により様々に見えてくるのが面白い。

写真番号-5 樹番号24 白山長滝神社のスギ

樹齢800年、根元の幹周囲8m、樹周6.15m、樹高40m 郡上市白馬町長滝 岐阜県指定天然記念物

今号でのご紹介は郡上市が中心となった。地図で見ると岐阜県は南北に細長く中央部は瓢箪^{ひょうたん}のような地形であり、郡上市は括^{くび}れたあたりである。

以下は岐阜県ホームページを参照。

国道156号線を郡上市白鳥町長滝から西へ50m入ると長滝白山神社。ここに目通り幹周囲6.1m、樹高40mのスギがある。この辺りにはスギがよく生育しているが、この木も

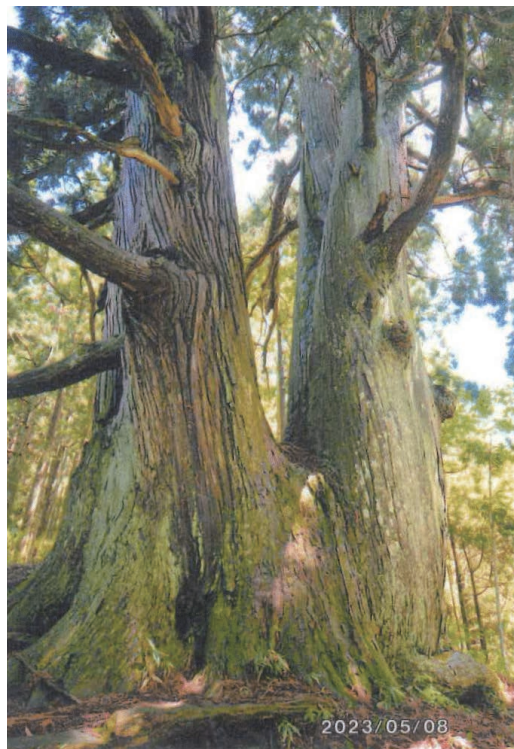


写真4 白山中居神社の浄安スギ



写真5 白山長滝神社のスギ

樹勢は旺盛である。

<筆者つぶやき>

岐阜県のなかで郡上地域には特に根張りの多い巨樹・巨木が集中しているように感じた。そうであれば地盤が固く木の根が地中に伸びず横に広がって根張りの樹相となるのではないかと気が付いた。

さてこの長滝神社のスギもご多聞に漏れず凄い根張りである。根元の幹周囲 8 m、樹周6.15m。幹周囲とは昔の表示は目廻り、つまり目の高さの表示であった。この木は約 2 m の違いがある。写真でご覧の通り主幹の 3 本分ぐらいの大きさの根を張っている。根張りの頂点までを見れば富士山にたとえてもおかしくない樹相を持っている。地震が来ても、少々揺さぶられてもこれだけしっかり根を張っていればビクともしないのではないか。近ごろ地震が多く建物の崩壊が大きな問題となっているが、この木をみれば、いかにネッコ、つまり基礎が大事なが、よくわかる教材のような巨木である。

写真番号-6 樹番号25 ^{かみの おつえ} 神ノ御杖スギ

樹齢1000年以上、樹周15m、根元の幹周囲(目通り) 9.5m、
樹高42m 郡上市美並町杉原 国指定天然記念物

上 2 m ぐらいの位置から大枝が東に向けて横に伸びているのがこの樹の特徴だ。

以下は、熊野神社境内案内板・郡上市ホームページ参照。

このスギは、郡上市の熊野神社境内の鳥居前参道中央にある。熊野神社の由来は、伝承によれば応和元年(961) 5 月、紀伊国の熊野那智大社の御神体を分社してこの神社を建立したとき、熊野の比丘尼俊応が当地を訪れ、夜の宿を頼み夢のお告げによって小庵を結び、近くに滝の権現をまつたのが始まりだという。

<筆者のつぶやき>

このスギの由来は、比丘尼がついてきたスギの杖を土中に刺したものが生長したというもの、地元に伝わる昔話では、枝が下向きに伸びているのが特徴であることから袂(もと)に入れてきた小石が成長してお杖スギになった、との説もあり「諸説紛々」で実に面白い。続く



写真6 神ノ御杖スギ